奈良県・大和飛鳥地域

日本のはじまりの地で「感謝」の気持ちを育む

1400年前に日本最初の宮都が営まれた場所、奈良県の中央部に大和飛鳥地域はあります。この地では、遣隋使・遣唐使の派遣や十七条の憲法の制定、乙巳の変、大化の改新などの政治改革と政変を繰り返しながら、「日本」という国が形作られていきました。

―「民家ステイでお父さん、お母さんと囲んだあの食卓の温かさは忘れられません」―

これは昨秋、民家ステイを体験された学生が残してくれた感想です。私たちは2011年より、この飛鳥の地で教育旅行の受け入れに取り組んでまいりました。これまでに国内から3万2625人、海外36カ国から2万124人もの皆さまに、民家ステイをご利用いただいております。

私たちが提供するのは、単なる宿泊体験ではありません。地域の方々との交流を通じて「自分を取り巻くすべてのヒトやモノ・コトへの感謝」の気持ちを育む「民家ステイ」を主軸としています。さらに、田植えや課題解決型学習などの各種体験、日帰りのまち歩きなど、参加者の皆さまの五感を刺激し、学びを深める多彩なプログラムをご用意しております。

「飛鳥・藤原の宮都」は世界遺産登録を目指しており、今夏、韓国・釜山で開催予定の世界遺産委員会にて審議・決定されます。「日本」という国が形作られたこの地で、ぜひ大和飛鳥地域の暮らしを肌で感じてください。

大和・飛鳥民家ステイ
大切にしている三つのコト

①共に調理し、共に食べる

畑での収穫や直売所での買い出しなど、ホストファミリーと一緒に地元の食材を準備するところからスタートします。献立は、旬の野菜を使った煮物や、そのご家庭ならではの味を受け継いだ和食が中心です。共に食卓を作り上げる過程を通して、班の仲間やホストファミリーとの交流が自然と深まります。日本の豊かな四季や食文化、そしてホテルやレストランでは味わえない「家庭料理の温かさ」を、心と体で感じていただけます。

②相手を思う心、自ら伝える力

大和飛鳥民家ステイでは、皆さまを「家族の一員」として温かくお迎えします。キーワードは「一緒にする」こと。すべての体験を、ホストファミリーや班の仲間と共に行います。普段とは異なる環境での共同作業や、世代を超えた対話を通じて、相手を思いやる心と自ら伝える力を育みます。ありのままの生活を共有することで、自然と生活の規範を学び、社会性を身につけることができます。

③「ほんもの」の歴史に触れる

大和飛鳥地域には、日本最大級の石室を有する「石舞台古墳」や、日本最古の仏像・飛鳥大仏が鎮座する「飛鳥寺」をはじめ、数多くの史跡が点在する、まさに歴史の宝庫です。東アジアとの政治的・文化的交流によって中央集権体制に基づいた宮都が築かれ、「日本」という国が誕生した舞台でもあります。

1400年以上の時を経た現在も、その歴史の舞台は美しい田園風景の中に息づいています。この地で「ほんもの」の歴史に触れ、ホストファミリーと生活を共にしながら、日本のルーツをたどる特別な時間をぜひご体験ください。

飛鳥の歴史に触れてみよう！

日本最古の飛鳥大仏がこんなに近くに！

体験できるプログラム
史跡散策や農業体験 地域と学ぶ「SDGs」

①「民家ステイ」と「SDGs」のつながり ～キーワードはサステナビリティ～

一人一人が、「世界を構成する一員であることを自覚して、行動を起こす」というSDGsの精神は、「自ら考えて行動すること」が求められる民家ステイの理念に重なります。また、田舎暮らしの知恵の中には、SDGsの取り組みに直結することがたくさんあります。里山の豊かな自然と歴史風土を守る飛鳥地域では、大規模宿泊施設の建設ができないなど、さまざまな景観規制がかかっています。

そのような地域性を生かせる地域活性化事業として、官民連携し当事業に取り組んでいます。民家ステイ利用が、地域を支え里山を守る一助となることを、事前事後学習ならびに当地での体験を通して学びます。

※より深い学びを得ていただくために、事前学習用ワークシートをご準備しています。

②飛鳥地域とSDGsのつながり～地元の人とより詳しく地域を知る『里ぶら・歴史ウォーク』～

村内全域が国の特別立法により景観保全地区に指定されている唯一の自治体・明日香村。地元在住の「里ぶらファミリー」と一緒に飛鳥地域を旅します。日本はじまりの地「飛鳥」の深い歴史、豊かな自然、そして人とのつながりを体感しながら気づきを深めることがコンセプトです。

1400年以上も前から、先進的な取り組みがなされてきた飛鳥では、海外から最先端の技術や文化を受け入れるだけでなく、女性天皇が即位するなど女性も活躍されていました。現代の私たちが直面しているSDGsの課題と比較しながら、学びを深めることができます。

③大和飛鳥de田んぼ体験（1年1校限定）

ユネスコ無形文化遺産にも登録されている「和食」。その最も基本となるのが「お米」です。日本の食料自給率が低い中、お米の自給率はほぼ100%を維持しています。食の多様化が進む現代だからこそ、私たちの食卓に欠かせないお米が「どのように作られているのか」を学ぶことには大きな意義があります。

本プログラムでは、機械化される前の伝統的な稲作を実際に体験していただきます。泥の感触を味わいながらの田植え体験や、地元のインストラクターとの交流を通して、生産者の想いや豊かな風土を肌で感じ、日々の「食」への感謝を深めることができます。

「里ぶらファミリー」と奇石を巡る

「大和飛鳥de田んぼ体験」の様子

広域な受け入れ体制
自治体、関係機関と連携

大和飛鳥ニューツーリズムでは、明日香村を中心とする12市町村の広域エリアにて、一度に約280人の受け入れが可能です。大和飛鳥地域は、京都から電車で約1時間、大阪市内やUSJ（ユニバーサル・スタジオ・ジャパン）へもバスで約1時間と、他エリアから非常にアクセスの良い立地にあります。各自治体や関係機関と緊密に連携を図り、参加者の皆さまを「安心・安全」にお迎えする万全の体制を整えております。

なぜ今、大和飛鳥ニューツーリズムの民家ステイなのか？

情報過多な現代において、生徒の皆さまが本当に必要としているのは、五感で感じ、心で学ぶ「ほんものの体験」ではないでしょうか。飛鳥の豊かな自然と歴史、そして温かい人々との触れ合いは、生徒の皆さまにかけがえのない気づきを与えます。温かい「人とのつながり」の中で「優しさや希望」を感じてほしい。「人って悪くない」と心から感じられるような、かけがえのない思い出をつくってほしい。大和飛鳥ニューツーリズムは、この想いを胸に未来を担う生徒の皆さまの成長を全力でサポートしてまいります。飛鳥の地で皆さまをお迎えできることを心よりお待ちしております。

最後は皆でバスを見送り

一般社団法人 大和飛鳥ニューツーリズム
〒634-0112 奈良県高市郡明日香村島庄5番地
TEL 0744-54-1525　FAX 0744-54-1526
E-mail:info@yamatoasuka.or.jp
URL:https://yamatoasuka.or.jp/

大和飛鳥ニューツーリズムでは、SDGsの④質の高い教育をみんなに⑪住み続けられるまちづくりを⑰パートナーシップで目標を達成しよう―をターゲット目標とし、教育旅行の受け入れと人材育成事業に日々まい進しております。

教育民泊から探究学習へ

滋賀県・東近江エリア（日野・甲賀・東近江）

近江商人と忍びの心に学ぶ
滋賀県東近江エリア
課題解決型修学旅行を提案

滋賀県の東近江エリア（日野町、東近江市、甲賀市）は〝売り手よし　買い手よし　世間よし〟の「三方（さんぽう）よし」の精神で常に社会貢献の心を忘れず、商いに精進した近江商人発祥の地です。また、甲賀エリアは甲賀忍者の里であり、今なおその末裔（まつえい）たちが自然の中で培われてきた先人の知恵と何事にも耐え、忍ぶ心を受け継いでいる地域でもあります。

近畿の水がめ琵琶湖へそそぐ河川の源流地域の豊かな自然の中で培われてきた「三方よし」と「忍び」の心が今も息づく農村の暮らしの中から、現代のこの国が忘れかけている大切な「心の豊かさ」を発見できる教育旅行をご提供しています。

東近江エリアのうち、近江日野は引率者の本部宿からわずか15分圏内に、東近江エリア、甲賀エリアは約30分圏内に、それぞれ受け入れ家庭が点在しています。1軒4人を基本に分宿し、その時期にある作業やものづくりなどを家庭で体験していただきます。東近江エリアへは京都や奈良、名古屋からバスで約1時間、名神高速・新名神高速主要インターからも約30分と、関西圏・中部圏との交通アクセスは大変良好です。

■生きる力を育む農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランで心の交流を！ ～課題解決型の修学旅行のご提案～

東近江エリアの農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランは、世代や職業の違う受け入れ家庭のなりわい、農村のありのままの暮らしの体験を交流の手段としながら、多くの会話で心を通わせ、交流が深まることにより、「①コミュニケーション能力の向上」が期待できます。

各家庭ではさまざまな体験ツールを用意し組み合わせることから、受け入れ家庭の数だけ体験があると言っても過言ではありません。また、食生産現場での体験、受け入れ家庭との共同調理、食することによる「②農作業の大変さ、喜び、食育」の理解の促進とともに、家庭との共同作業、共通体験を通して「③達成感や豊かさ」をより深く体感いただくことができます。農村生活体験（農泊）と家業おまかせプランを通して、生徒たちの「④リーダーシップの資質向上」「⑤主体性、協調性」を養うプランは数多くの学校さまにご支持いただいています。

体験することが目的なのではなく、体験を通して交流を深め、生きる力を育み、人としての成長を促すことが最も大切だと、私たちは考えています。教室だけでは学ぶことが難しい「ひとりひとりが考え、行動する力」を養うことができる場をご提案いたします。

おかげさまで、東近江エリアでの教育旅行の受け入れを始めて16年の経験を積ませていただきました。安全安心、そして教育効果の高い受け入れに向けて地域一丸となって取り組んでいます。皆さまのお越しをお待ちしております。

受け入れ家庭での共同調理の様子

家庭ごとにさまざまな体験ツールを用意し、生徒のリーダーシップの資質や協調性を養う

スナップエンドウの収穫体験

一般社団法人 近江日野交流ネットワーク
〈ワンストップ窓口〉日野町商工観光課内
〒529-1698 滋賀県蒲生郡日野町河原1―1 日野町商工観光課内
TEL 0748-52-6562　FAX 0748-52-8888
E-mail inakataiken@omi-hino.jp
URL https://www.omi-hino.jp/

広島湾ベイエリア・大崎上島

自然と歴史と探究学習
人情感じる感動の島

広島県大崎上島町は、瀬戸内海のほぼ中央に位置する面積43.11平方キロメートル、人口約7千人の離島です。本土とは竹原港、安芸津港とフェリーで約30分で結ばれており、その他、大崎下島、大三島、今治市との航路もあります。離島ではあるものの、山陽自動車道・広島空港等により主要都市とは短時間で結ばれています。瀬戸内海特有の温暖な気候と風光明媚（めいび）な景観の中、島という限られた土地に生き、造船・海運業、ミカン・レモン・デコポンなど、多種類の柑橘（かんきつ）栽培をはじめとする農業、水産業など、先人たちのたゆまぬ努力によって発展してきました。

平成23年より体験型修学旅行の受け入れに向けてスタートし、島の特性・文化を生かしたさまざまなプログラムを用意しています。中でも一番のおすすめプログラムは、200年以上の伝統を誇る「櫂伝馬（かいでんま）体験」です。昔は陸の伝達手法は早馬でしたが、櫂伝馬は海での情報伝令の役目を担った木造船で、14人の漕（こ）ぎ手と太鼓1人、船頭1人の16人が乗り込みます。それぞれのポジションで役割を担い、独特の掛け声と太鼓で調子を合わせ、心を一つにして櫂の動きを合わせなければならず、チームワークの育成に比類のない、学校教育には極めて有効なプログラムです。

また、瀬戸内の穏やかな海を渡り甘藻場（かんもばつ）で海の生命について学ぶシーカヤック体験、刺網漁や船釣り、波止釣りでとれたばかりの魚の調理体験、温暖な気候で育まれたミカン、レモン、デコポン、はるみなどの多種類の柑橘や、ブルーベリー、イチゴ、トマトなどの栽培過程を学ぶ農業体験など、島をまるごと体験していただけます。

民泊体験は120人の受け入れが可能で、島の人々と生活を共にすることにより、豊かな自然と島独特の人情を感じていただき、島の人々の生き方や命の源の食生産を担う農山漁村の役割を考え、理解する機会となります。これら「まるごと島体験」が、自らの生活や家庭、生き方を省みる機会となり、生きる力と豊かな心を育む契機になればと考えています。

皆さまに安心して来島いただけるよう、安全・衛生・防火などの各種講習会を行い、万全の体制でお迎えしますので、ぜひ大崎上島町にお越しください。

◆SDGs取り組みプログラム

「主体的・対話的で深い学び」に加え、2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標であるSDGsに取り組むためのプログラムも用意しています。

●シーカヤック（体験人数120人）

海岸周辺を航海し、海と島々の美しさを楽しみます。また、プランクトンや稚魚がすむ「魚のゆりかご」と呼ばれる瀬戸内海でも有数の甘藻場の観察をし、環境学習をします。

●ミカン農家体験（体験人数50人）

瀬戸内海特有の温暖な気候で育ったミカンの剪定（せんてい）、収穫などの作業を体験します。また、栽培過程から農業の厳しさを学び、食について学習します。

チームビルディングに最適な櫂伝馬体験

農業や食を学ぶ農業体験

シーカヤック体験

瀬戸内海で船釣り体験

フェリーに乗ってお別れ

広島湾ベイエリア・海生都市圏研究協議会
（広島商工会議所　産業・地域振興部　地域振興課内）
担当（田村）
営業時間　月～金曜日　9：00～18：00（祝日は除く）
〒730-8510 広島市中区基町5-44
TEL 082-555-8081　FAX 082-222-6622
E-mail bayarea@hiroshimacci.or.jp
URL https://www.hiroshima-bayarea.net/